

第1回意見の整理・キーワード抽出

1 全般・考え方

- ・小樽を訪れる人が最初に見て、離れる人がお別れを告げる場所なので、**小樽らしさ**が必要
- ・延伸区間の新八雲（仮称）駅～札幌駅の中で、**歴史を感じる駅**は小樽しかないのでは。
- ・新幹線自体が未来的な雰囲気を持つので、**未来的な外観は求めなくてもいい**のでは。
- ・「小樽らしさ」は抽象的で、色々な考えがある。一つに**まとめるのは難しい**と思う。
- ・実際に乗り降りする方に**難しいコンセプトは伝わらない**。
- ・「**新小樽駅は一度見ておきたい**」と思わせることで、札幌目的の寄り道需要も取り込める。

2 多くの人が「小樽らしさ」を感じる要素

【キーワード】

歴史的な街並み・・・運河 石造倉庫 石畳 軟石 レンガ ガラス
灯り・・・ガス灯 オレンジ 雪あかりの路 ろうそく 温かさ

- ・小樽といえば、やはり**運河**。散策ルートの**石畳**など、何か**運河を感じてもらえるイメージ**に。
- ・**運河周辺の石造倉庫**をモチーフにするとか、その材料を使うというのが優等生的。
- ・**石造倉庫、ガラス、ステンドグラス、雪あかりの淡いオレンジ色あたり**は市民に受け入れられやすく、無難なイメージ。
- ・**ガラス**か、ニトリの美術館でイメージがついてきた**ステンドグラス**も感じられるように。
- ・**軟石**や**レンガ**は何十年、百年経っても味わいがあり趣を持っている。歴史の重みを感じられる。ただし、軟石、レンガを積み上げると、建築費は2～3倍に膨れ上がるかもしれない。
- ・外観は**倉庫、石、レンガ、アイヌ文様**のような**組み合わせ**と、**倉庫内のような内装**はどうか。
- ・**雪あかりの路のろうそくの灯り**みたいな**オレンジ色**や、運河の**ガス灯をイメージしたような照明**は**小樽らしさ**が伝わると思う。
- ・天神の**雪の多さをうまく使う**ようなやり方とか、**冬の照明**の仕方が重要なポイントと思う。
- ・**小樽の持つ温かさ、雪あかりの温かい光**を表現できるようなデザインがいいのかなとも思う。
- ・小樽のイメージのひとつは**ガス灯**。どこかに入れて欲しい。高い位置ではなく、**写真を撮ったときに映り込むような位置**がいいと思う。



【出典:小樽観光協会 HP】

3 新駅周辺の自然・眺望

【キーワード】

奥沢水源地 水すだれ 天狗山からの眺望

- ・新駅周辺は自然が多い。奥沢水源地をモチーフにするとか、デザイン参考例（資料 2-1・P74）のようなものもありなのかなと思う。
- ・天神地域をイメージして、水すだれ、水源地の溢流路の雰囲気を表せられないか。
- ・天狗山第3展望台から俯瞰するようなアングルで見られる駅はあまりなく、これも「一度はみてみたい」と思わせ、観光需要につながる要素と思う。

4 バリエーション・ポイント・内観

【キーワード】

赤系 レンガ 緑や雪に映える色 大正ロマン 港 海 漁業 アイヌ文様
倉庫 ガラス作品 遊び心

- ・かつての大正ロマンの雰囲気、レンガを基調とした街並みを思わせる赤系の色を取り入れてほしい。
- ・緑系・茶系だと周辺の色と同化し、少し暗い印象になると思うので、少し明るく、例えば赤の明度が 4 から 6、彩度は中央あたりがいいと思う。
- ・冬は多分真っ白になる。はっきり駅舎だと分かることも冬には必要ではないか。
- ・雪の小樽には、レンガの色がすごく合う。
- ・未来へのアプローチとして、港町、海のイメージを入れてもいいのでは。航路的に優れたアジアに加え、今後北極海航路の話もあるヨーロッパに向けても、ここから小樽を発信できるのでは。
- ・デザイン参考例以上の歴史を考えると、小樽もオタルナイというアイヌ語発祥の街だし、北海道の駅として一つくらいはアイヌ文様、コタンの文様が駅舎の前面に出てきてもよいかと思う。
- ・北前船、ニシン漁で街が潤っていた。漁でガラスの浮き玉が使われた歴史もあり、例えばガラスでニシンのうろこを表現するなど、ポイントとして祖先をリスペクトするような形で、漁業を表現しては。
- ・外観は倉庫、石、レンガ、アイヌ文様のような組み合わせと、倉庫内のような内装はどうか。（再掲）
- ・日本遺産など歴史を生かしたまちづくりを進めていく。ニシンなど歴史の要素をポイントとして入れるとか、内部で反映していくとかも必要だと思う。
- ・内部に小樽駅という素晴らしい駅舎の内部の素晴らしさを何かモチーフに使っては。
- ・小樽はガラス制作の拠点でもあり、小樽駅ではガラス作家の作品をショーケースで展示している。新駅では、内側の壁のくぼみや棚などのスペースを作り、海・水をモチーフにしたガラス作品などを展示すると、小樽らしさを中でも感じていただけると思う。
- ・地域的に水がテーマになると思うので、内装に取り入れられたらいいと思う。
- ・遊び心を持つなら、鯧の街なので、歩くところや壁に魚への漢字を並べていくとかがあってもいい。



【市内レンガ建築の事例：国指定重要文化財・旧手宮鉄道施設（出典:小樽市HP）】



【アイヌ文様を取り入れた事例：国立アイヌ民族博物館エントランス（出典:北海道開発局HP）】

5 利用面での配慮

【キーワード】

使いやすさ ユニバーサルデザイン 外国語表記 ゆとり

- ・ガラス張りはデザイン上は良くても、夏場暑いというようなこともあるので、デザインに加えて使いやすさにも配慮していただきたい。
- ・ユニバーサルデザインについて、スキーやスノーボードを持つ外国人観光客にも配慮し、トイレも含めドアの高さを確保するほか、迷わず観光地などに行けるよう、外国語の表記もしっかり行い、利用しやすくしてほしい。
- ・また、高齢者がこれからもっと増えるので、通路の幅を広く、車椅子の人でもゆとりを持って通れるようになればいいと思う。